

製品名: TIP60 (リン酸化 Ser90) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05562**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:10000

分子量

抗原情報

遺伝子名	KAT5 KAT5; HTATIP; TIP60; Histone acetyltransferase KAT5; 60 kDa Tat-interactive protein; Tip60;
別名	Histone acetyltransferase HTATIP; HIV-1 Tat interactive protein; Lysine acetyltransferase 5; cPLA(2)-interacting protein
遺伝子 ID	10524.0
SwissProt ID	Q92993
免疫原	抗血清は、ヒト Tip60 の Ser90 リン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 56-105

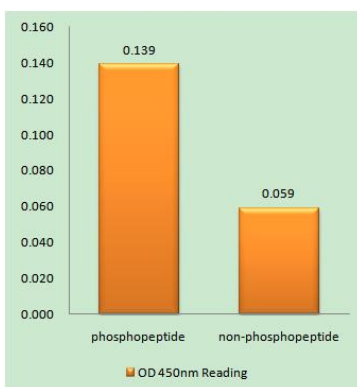
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ヒストンアセチルトランスフェラーゼ (HAT) の MYST ファミリーに属し、もともと HIV-1 の TAT 相互作用タンパク質として単離されました。HAT は、ヒストンおよび非ヒストンタンパク質をアセチル化することにより、クロマチンリモデリング、転写、その他の核プロセスを制御する上で重要な役割を果たします。このタンパク質は、DNA 修復およびアポトーシスに関与するヒストンアセチル化酵素であり、シグナル伝達において重要な役割を果たすと考えられています。この遺伝子の選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、RNA ポリメラーゼ II プロモーターからの転写の負の調節、サイトカイン産生の調節、サイトカイン産生の負の調節、DNA 代謝プロセス、DNA 修復、二本鎖切断修復、クロマチン構成、クロマチンの組み立てまたは分解、転写、転写の調節、DNA 依存性、RNA ポリメラーゼ II プロモーターからの転写の調節、タンパク質アミノ酸のアセチル化、DNA 損傷刺激への応答、DNA 損傷応答、p53 クラスメディエーターによるシグナル伝達による p21 クラスメディエーターの転写、細胞内シグナル伝達カスケード、生合成プロセスの負の調節、生合成プロセスの正の調節、RNA ポリメラーゼ II プロモーターからの特定の転写の調節、RNA ポリメラーゼ II プロモーターからの特定の転写の負の調節、高分子生合成プロセスの正の調節、高分子生合成の負の調節プロセス、高分子代謝プロセスの正の制御、高分子代謝プロセスの負の制御、遺伝子発現の正の制御、遺伝子発現の負の制御、転写の負の制御、クロマチン修飾、共有結合性クロマチン修飾、ヒストン修飾、ヒストンアセチル化、DNA 損傷応答、p53 クラスメディエーターによるシグナル伝達、ステロイドホルモン受容体シグナル伝達経路、アンドロゲン受容体シグナル伝達経路、細胞内受容体介在シグナル伝達経路、細胞生合成プロセスの負の制御、細胞生合成プロセスの正の制御、遺伝子特異的転写の負の制御、遺伝子特異的転写の制御、インターロイキン -2 産生の制御、インターロイキン-2 産生の負の制御、ストレスに対する細胞応答、成長の制御、DNA 損傷応答、シグナル伝達、DNA 損傷応答、転写をもたらすシグナル伝達、タンパク質アミノ酸アシル化、転写の制御、転写の負の制御、DNA 依存性、正の制御転写、DNA 依存性、核酸塩基、ヌクレオチド、ヌクレオチドおよび核酸代謝プロセスの負の調節、核酸塩基、ヌクレオチド、ヌクレオチドおよび核酸代謝プロセスの正の調節、転写の正の調節、RNA ポリメラーゼ II プロモーターからの転写の正の調節、窒素化合物代謝プロセスの負の調節、窒素化合物代謝プロセスの正の調節、多細胞生物プロセスの負の調節、RNA 代謝プロセスの調節、RNA 代謝プロセスの負の調節、RNA 代謝プロセスの正の調節、染色体構成、

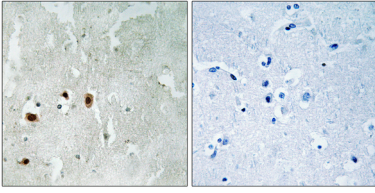
研究分野

タンパク質アセチル化

画像データ



Tip60 (リン酸化 Ser90) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



Tip60 (リン酸化Ser90) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。